

---

---

**健康測定評価論**

Health Measurement and Assessment

宮 井 信 行 教授

増 田 匡 裕 教授

1 年次後期・選択

2 単位・30 時間

---

---

**【概要・目標】**

健康づくりや疾病予防の活動を効果的に実践するためには、対象集団の健康状態の現状を把握し、健康課題の解決につながる有効な手段を導くことが重要である。本講では、人の健康を客観的に測定・評価するための方法論や、その過程において不可欠となる研究デザインおよび統計解析手法の理解を深め、研究に的確に応用する力を養うことを目的とする。

---

**【授業内容・スケジュール】**

- |                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 1) R で記述統計をする                     | 増田 |
| 2) R で推測と検定をする                    | 増田 |
| 3) R で 2 変数間の関連を分析する              | 増田 |
| 4) R で 2 群間の平均を分析する               | 増田 |
| 5) R で分散分析をする                     | 増田 |
| 6) 交互作用について理解する                   | 増田 |
| 7) 大学院生ディベート：R は保健看護学に向けた統計パッケージか | 増田 |
| 8) 集団における健康度の把握                   | 宮井 |
| 9) 疾病頻度の差の分析（有病割合の比較）             | 宮井 |
| 10) 疾病頻度の差の分析（アウトカム指標の比較）         | 宮井 |
| 11) 疾病と曝露要因の関連の分析                 | 宮井 |
| 12) 危険因子の探索と影響度の分析（横断研究）          | 宮井 |
| 13) 危険因子の探索と影響度の分析（縦断研究）          | 宮井 |
| 14) 因果関係のパス解析                     | 宮井 |
| 15) 複数要因の交互作用の分析                  | 宮井 |
- 

**【評価】**

宮井：参加態度（20%）、課題（20%）、提出物（60%）により総合的に評価する。

増田：ディベートの場面で提示される資料で総合的に評価する。ディベートの勝敗は評価の対象としない。あくまでも議論の質と明文化された資料のみを評価する。

※評価責任者 宮井教授

---

**【テキスト】**

宮井：使用しない（資料を配付する）

増田：杉野勇 『入門・社会統計学』 法律文化社 2017 年

---

**【推薦参考図書】**

特になし

---

**【その他】**

第7回はプレゼンテーションとディスカッションによる院生主体の講義を行う。

連絡先：miyain@wakayama-med.ac.jp（宮井）

masuda@wakayama-med.ac.jp（増田）